

# RKU Today

流通経済大学広報誌

SPRING 2013

【特集】

2014 冬季オリンピック開催地  
ロシア・ソチを訪ねて



流通経済大学

vol.23

04 【特集】

文・写真：荒井宏和（スポーツ健康科学部准教授）

2014冬季オリンピック開催地  
ロシア・ソチを訪ねて

10 【学長室だより】

小池田富男（流通経済大学長）

私立大学におけるガバナンスとマネジメント  
—学校教育法と私立学校法について—

【新連載】

14 ウェストバージニア大学留学記 第1回 山岸直基（社会学部准教授）

「大学の街」モーガントウンとその周辺

16 Close Up!

流通経済大学

[教職員紹介]

18 【馬場啓一のRKUウォッチング】

文：馬場啓一（法学部教授）

「大学はいつも学生のことを考えています」  
波田永実 法学部教授

20 【留学生紹介】

取材：沖野雅広（企画広報室）

ポンクーン・ナッタポンさん（タイ出身）  
「ホームステイをして、日本の文化や伝統、  
生活を自分の目で見て回りたいです」

21

流通経済大学図書館・校友会・  
国際交流センターからのお知らせ

22

NEWS & TOPICS

2012年度卒業式及び大学院学位記授与式／卒業論文発表会  
国際観光学科主催立食パーティー／交換留学生修了式  
業界・企業説明会／公開講座「更級日記を読んでみよう」



新入生諸君、ご入学おめでとう。  
これから四年間どういう大学生活を送ろうか、  
様々に思い描いていると思う。  
一つだけは非勧めたいことがある。  
それは、毎日の日課として  
新聞を読むこと、である。  
なぜか、それは日本においては新聞こそが、  
世論を形成し、世間を導き、  
世の指針と、なっているからである。  
大新聞と呼ばれるものが、  
経済紙を含めて、いくつもある。  
それを、どれでも宜しい、  
一つ決め、読むことである。  
大学は社会に出る前のステップである。  
そしてその出口に近く就職が存在する。  
その就職活動を円滑にするためには、  
世間の動向を知る必要がある。  
それには新聞購読が一番なのだ。  
下宿している者、自活している学生は、  
大学の図書館で読めば良い。無料である。  
新聞を毎日読むことで、就職活動において、  
大きく他と水をあけられる。  
新聞を読むことで人生が変わるのだ。



成田空港では、ちょうど時を同じくしてフィギュアスケートのワールドカップがソチで行われるというところで、日本を代表する『あの』女子選手やトリノオリンピックで金メダリストとなった『あの』方や、テニスの『あの』熱い方も一緒であった。

まずは、国際線、国内線ともにエアフロート航空を利用した。今までの経験の中で数多くの航空会社を利用したが、可もなく不可もないという感想だ。最近では機内でUSBの使用ができる航空

機も多くなってきた。これは長時間のフライトではなにかと便利である。しかし、他にもルフトハンザや日本航空などでは機内でインターネット回線が使える路線もあり、さらに便利である。約十一時間の空の旅は、空席もあり機内は余裕をもって過ごすことができた。二回目のロシア訪問時には、機内での環境に対して、動脈血酸素飽和度(SpO2)がどのように変化するか実際に自分で測定してみた。つまり機内の気圧変化によって低酸素血症を引き起こし、

選手が頭痛や体調不良を起こさないかなどを調査するためである。また二時間おきに脱水の状態を調べるために尿比重計を使って、尿の水分比を調査した。通常機内の湿度はとても低く、上気道感染から風邪を引く選手もいるので、ほとんどの選手がマスク着用を積極的に実施している。

モスクワ到着時には、辺りはすっかり夜で、飛行機を降りてバスでターミナルまで移動したが、とても長く感じた。外気温がマイナス五℃位という、極寒のモスクワ滞

在は、空港近くのホテルに宿泊し、翌日ソチの空港へ出発することにした。

国際線と違って国内線は満席で窮屈な感じがしたが、およそ二時間半のフライトは全く問題ない。ただし、一ツ気になったのは着陸と同時に乗客から拍手がでたこと。これは帰りの飛行機でも同じだった。どんな意味があるのだろうか？ 機長へのねぎらいの拍手か？ それとも…、あまり深く考えるのをやめた。

## 成田からモスクワ、そしてソチへ



XXII Olympic Winter Games  
Sochi

[特集]

# 2014冬季オリンピック開催地 ロシア・ソチを訪ねて

2012年12月と2013年2月、合計2回のロシア訪問を経験した。その目的は、来年行われるソチオリンピックに向けた調査であるが、それだけでなく貴重な経験をしたので、それを伝えたいと思う。

文・写真: 荒井宏和(スポーツ健康科学部准教授)



# オリンピックピク開催に向けて

ソチの空港を降りると外気温は十五℃位であり、モスクワとの差は二〇℃となる。空港を出ると、工事中の大きな五つの輪が目飛び込んできた。この五つの輪は五大陸を意味しているが、実際にはどの色がどの大陸を示しているかあまり知られていないかもしれない。青はオセアニア、黄色はアジア、黒はアフリカ、緑はヨーロッパ、そして赤はアメリカである。そしてオリンピック旗の六色は全ての国の色を表現している。

ソチオリンピックは、二〇一四年二月七日から、二十三日まで開催されるが、十二月とはいえ、本当にここで冬季オリンピックが開催さ



あった。最初は険しい顔つきで話をしていたが、こちらから「日本人に似ているね」と話しかけると、急に表情が緩んだ。そこで、実際に彼らにどのくらいの賃金で働くのかと聞いたところ、日雇いで月給約五万円、専門職で七万円だという。それでも本国の生活と比べると条件はいらいしい。

周辺国のテロ組織が関与して起きた事件としては、ドモジエドヴォ国際空港のテロやモスクワ市内の地下鉄連続爆破テロ、そしてチエチェンの劇場占拠事件などが記憶に新しい。こちらで聞いた話



では、このソチの開催に関わっている周辺国の労働者に雇用の機会を与えることが、テロ発生のストレスを解消する役割も担っているのではないかとのことである。しかし、いつテロが発生するかわからない、とても不安定な環境であることには変わりなく、空港や試合会場の入口には、セキュリティゲートが配備されており、人物や建物に対して写真撮影に厳しく制限がかけられる。日本では考えにくいほど神経質だ。また、実際に滞在中、宿泊していたホテルに内務省の職員が抜き

れるのだろうか？と不安に感じる

くらい雪がない。遙か遠くの山頂辺りにはわずかに雪が積もっているようだ。オリンピック本番では、空港周辺の会場で水系の五種目が開催される。そこから車で約一時間山間部に移動した会場では、雪系の一〇種目が開催される。ひとこと雪系と言っても、スキージャンプ(男女)、ノルディックコンバインド(男子)、スノーボード(ハイパイプ男女、クロス男女、バラレル回転男女)、フリースタイル(スロープスタイル男女、スキーハーフパイプ男女、クロス男女、エアリアル男女、モーグル男女)などがある。我々は、車を借りてスキージャン



プ会場となる山の会場に移動した。ロシアは、基本的に英語が通じない。ましてや田舎になると全くである。今回は、外務省の研修生が通訳としてサポートしてくれたのがとても助かった。途中、どの車もまるでレースをしているかのようにスピードを出しては追い越して行く。右側通行左ハンドルに慣れていないと本当に危ない。もし、交通事故を起こしたら、警察



打ちで訪れ、我々にパスポートの提示を求めてきた。ロシアの内務省は、アンチスパイであり、我々がどのような行動をとり、どのようなことを聞いていたかなど、ホテルの従業員に訪ねていたらしい。全く笑顔も見せず、機械的な表情を思い出すと、とても緊張した時間だった。そもそもロシア人の多くに笑顔は見られなかった。近所のスーパーマーケットも、「品



物を売ってあげるよ」というような雰囲気、水を買うにも高額

の紙幣で支払おうとすると、「おつりがないから、そのぶんもって買え」と要求してくることがあった。また別の日本人は、ロシア人のボランティア通訳がいなければ、「危うくおつりが少なくなるところだった」と話をしてきた。基本的にボランティアの人たちは外国人に対して、とても好意的で親切だった。笑顔をつくれれば、笑顔を返す。特に日本人だとわかれば、日本の電化製品を持ってきて、「これは最新のものか？」とか、「日本ではいくらで買えるのか？」など質問攻めにあう。ここで行われたワールドカップは、オリンピックのテストイベントでもあり、ボランティア自身は、運営そのものや外国人へのアテンドなど

の検証が終わるまで車両を移動できず、それによって大渋滞が発生する。仮に移動してしまつたら非を認めることになるらしい。途中インフラの確認や生活に必要な物品を調達するための調査をしながら、我々が宿泊するホテルに到着した。ここ

はオリンピック期間中、日本チームにとつて重要な役割をするホテルである。この周辺は、かつては長閑な村で、プーチン大統領の別荘もある。オリンピック開催が決定した以降、開発が急速に進んだ。最終的にはオリンピックのためだけでなくロシアの大リゾート地として四兆六〇〇億円かけて空港から繋がる鉄道や高速道路、高級ホテルやマンションが建設され



る予定らしい。このうち、約二兆二五〇〇億円は民間からの投資だということだ。ソチは、そもそも旧ソ連時代の保養地であり、黒海での海水浴や山間部で行えるスキーのために、年間二五〇万人以上が訪れる。しかし、充実したりリゾート地としては完璧ではなく、ロシア国民もスキーをするならオーストリアなどの周辺国で滑る。オリンピックに向けた整備に対して、五六万人の雇用を生み出したとされるが、実際にここで働く人たちのなかには、周辺のゲルジアやウスベキスタンなど中央アジアからの出稼ぎも多い。一見、日本人かと見間違えるくらい顔が似ている。時々我々も、ロシア語で話しかけられることが

## Russian Meals

### ロシアでの食事

ロシアでの食事に美味しくないものはなかった。ソチでは新鮮な魚料理やゲルジア料理は全てが美味しく、絶対に日本人の食感に合う食事だと思う。



トレーニングの場として位置づけられている。スポーツツーリズムという観点からすると、ホスピタリティなどよくトレーニングされていると思う。

周辺の環境は山が削られ、森林が伐採されて自然破壊が痛々しく思える。また住民の生活は、家屋の煙突から煙が出ている**ぼっかて**、牧歌的な光景から、薪が燃料と

## FISワールドカップのスキージャンプとノルディックコンバインド

今回のロシア訪問で最大の目的は、来年行われるソチオリンピックに関する環境調査である。詳細な内容は述べることはできないが、簡単に言えば選手団が円滑に競技に専念するための準備である。

その中で、十二月はスキージャンプ、年を超えて二月はノルディックコンバインドのチームに帯同した。ちなみに、スキージャンプは、ロシアではトランポリンと言う。まず、スキージャンプは、高梨沙羅選手が今シーズンワールドカップでは、三位以内の確率が

される生活が想像できる。このことを考えると、二〇一六年、および二〇二〇年東京オリンピックのコンセプトは既存の施設を活用し、自然へのダメージが極力抑えられており、ソチオリンピックよりは、圧倒的にコストや環境への配慮が考えられ、近未来的なオリンピックと言えるだろう。

七〇%を超えており、現在最もメダルに近い存在と言える。ソチオリンピックでは初めて採用される女子ジャンプに日本人のメダリストが生まれるのか期待されることであるが、今回のラウンドでは優勝はできなかった。しかし、着実に自己の課題を克服し調子を上げている。

オリンピック本番は、夜九時(現地時間)からのジャンプになるので、それを想定して今回はナイターであった。遠くから見るジャンプ台はライトアップされとても幻想的であったが、実際に選手が

スタートする高さから着地点を見た時に、もしここで飛べと言われても、恐怖心が先に立ち、それは私にはできないだろうと思っただ。しかし今回実際にスキージャンプ競技に携わらなければ、あまりルールなど知らないところだった。この競技は着地するまでの飛距離、空中姿勢、着地姿勢（テレマーク）が得点に反映され、その他、風の向き（ウィンドファクター）やスタート位置（ゲートファクター）で加点・減点される。遠くに飛べば高得点が得られるというものではない。スタート位置からの落下スピードとそれに耐えられる踏切のタイミング、着地時の衝撃対応など一瞬の判断が求められる奥深いスポーツと言える。

一方、ノルディックコンバインドは、萩原兄弟や河野孝典選手などに代表される有名な選手がいる。北欧ではキングオブスポーツとも賞賛され、クロスカントリーなどとともにとても人気が高い競技である。ジャンプの得点はクロスカントリー10kmのスタート時間に反映されるが、ここでは雪の温度や質などに対応するワックスが勝敗を左右すると言っても過言ではなく、とても緻密な世界である。これは



ジャンプに使用するワックスも同様だが、滑降中のたった数秒のためのワックスが数万円もする。ソチの会場では雪不足の懸念があるが、天然雪を貯蔵しフランス製の降雪機を活用しながら雪の環境を造り出すとのことである。本番の大会ではどのような自然環境が造られ、どのようなワックスが適合するのか、競技とは違う世界で各国のマテリアル開発競争が起きている。

ここ最近のワールドカップの成績を分析しても、日本のノルディックコンバインドチームは着実に力をつけている。ドイツやオーストリア、ノルウェーなどの強豪国に勝つためには、ジャンプで高得点を上げ、クロスカントリーのスタート時間を短縮することが求められる。この競技は率直に面白いといった感想である。選手やコーチの方々の苦労と努力を目の当たりにすると、



心からサポートしたいと感ずるのであった。さて、この会場は選手村を中心に、ジャンプセンター（ジャンプ/コンバインド）、スライディングセンター（ボブスレー/スケルトン）、アルペンセンター、クロスカ



セントリー/バイアスロンセンター、エクストリームパーク（スノーボード）に分かれる。その中で、この周辺で一番高いアイブガ山に登ってみた。そこからは二〇〇m以上の級のコーカサス山脈が周囲にそびえ、眼下には選手村やプーチン大統領の別荘らしきものも見えた。ただし、地元の人に教えてもらったが、実際は警備上はつきりとした家屋は見えない。しかし、山頂のレストランでは、数ヶ月前にプーチン大統領が会食をしていたというテンプルに案内してもらい、そこでカフェラテを注文した。贅沢な場所と東の間の贅沢な時間を過ごすことができた。ここではVIPがよく訪れるそうだが、一本しかない幹線道路が封鎖され大渋滞になるそうで、地元住民の不評をかう。よって当人は、それを配慮してヘリコプターで来るそうだが、車での移動はあくまでも影武者という説もあるとのことだ。

## モスクワにて

十二月のソチ訪問では、そのままモスクワ経由で成田の帰路に就いた。二回目となる二月は、帰



りにモスクワに一泊した。その夜はモスクワ支店の大手銀行に勤務する後輩と夕飯をともにすることができた。ここは、

話や、ロシアの政治経済、北方領土に至るまで幅広いジャンルで話が盛り上がり、時間が経つのが早かった。オリンピックが世界の大都市で開催されることをきっかけに、民族的観点から歴史や文化、政治など人類学を学ぶことも面白いかもしれない。

翌日は、成田へのフライトまで十分な時間があつたので、モスクワ市内を見学する時間があり、赤の広場を目指した。ホテルからは地下鉄を使うという手段とタ

クシーという手段があつたが、渋滞による時間のロスを考慮して前者を選んだ。ヨーロッパの観光地には必ずスリがいると言われていた。過去にスペインのマドリッドで未遂ではあるがスリ被害にあいそうになった。その後、みんなスリに見えて、観光どころではなくならたことを思い出した。

初めて見た赤の広場は、飛行機の中で見た映画『ミッション・インポシブル4』の中に出てくるクレムリンのワンシーンと重なった。聖ワ

シリイ大聖堂はまるでデイズニランドのような造り？と言ったら、モスクワ市民に怒られるかもしれない。そういえば、私が高校生の頃、ここにフィンランドからセーナ機が不時着して大きなニュースになっていたことを思い出した。

ここには、国立歴史博物館や旧国立百貨店（グム百貨店）などがあり、この周辺にはKGBや国立図書館がある。私は、海外に行くに必ずアップルストアとスターバックスに行く。残念ながらモスク

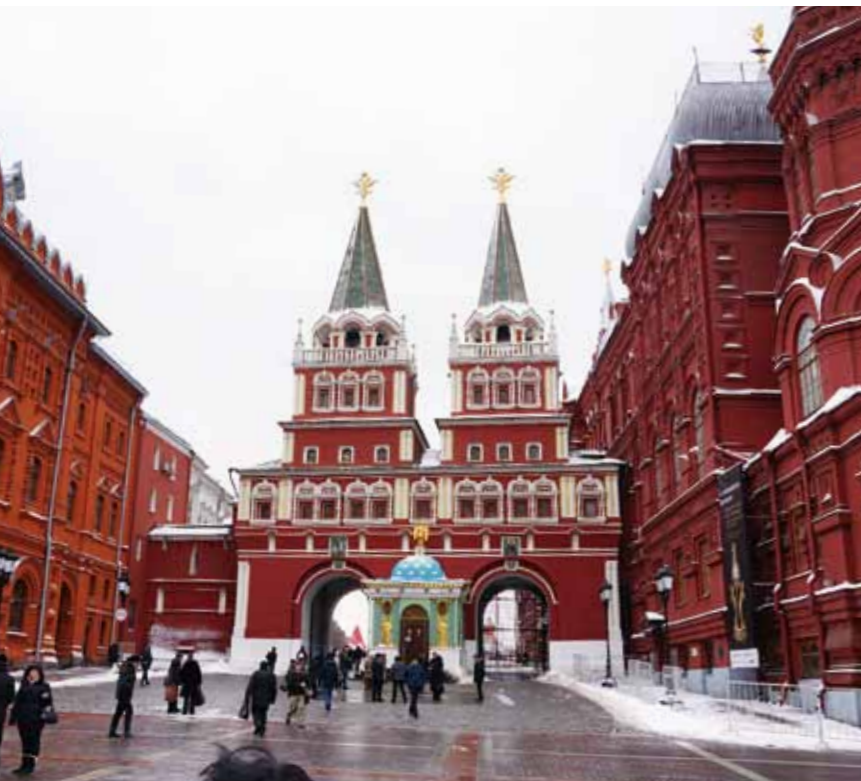
ワにはアップルストアはなく、クレムリンのスターバックスで、ここでしか買えないタンブラーを購入した。あまりゆっくり

市内を見ることができなかったが、最寄り駅からアエロエクスプレスで国際空港へ向かった（車内で「Экспресс」が使えた）。そして空港駅に到着するとX線検査で長蛇の列ができていたが、ロシアでは当たり前前の光景で、すっかり慣れてしまっ



一八八七年創業のモスクワで最も古いレストランだということである。他のお客は、スーツ姿で葉巻をたしなんでおり、どうやらその会話はビジネスが中心だとのことである。とてもジープンで入れる雰囲気ではない。しかし、ジープンとトレッキングシューズしかなかったもので、結局入ってしまった。コース料理の中で黒パンのチョイスから始まり、途中で水餃子があつた。ロシアという国の歴史をたどると、過去にモンゴル帝国の支配下にあつたことがある。水餃子はその時代の名残を意味し、こちらのレストランではその伝統がメニューに引き継がれているとのことである。海外に行く機会が多くなって、今更ながら、高校時代に世界史を選択すれば良かったと少し後悔した。

その時間は、昔の学生時代の



こうして、ロシア・ソチの出張は、私の初めてのロシア訪問とともに、オリンピックに対する日本チームの貢献と現地の文化を知る上で貴重な時間を過ごし、様々なことを深く考えさせられる経験を与えられた。今回、本誌に寄稿させていただく機会を得た。海外の文化に触れることは、率直に述べると視野を広くさせてくれるものだと思う。そして今回のことを多くの学生たちにも、どうしたらわか

りやすく伝えることができるか考えながら執筆させてもらったつもりだが、興味がある方はぜひ研究室を訪れてもらいたい。昔、本学の学生が海外から帰ってきて、目の色を変えてその体験を話してくれたことを思い出す。物より経験。経験は人を変える力を持っている。是非、時間がある学生時代に海外に行つてほしい。あるいは、本学の留学生たちと積極的に話をしてみるのも良いだろう。そして、何よりも世界の人々が集う、来年二月のソチオリンピックが無事に成功することを願いたい。

「学長室だより」

# 私立大学における ガバナンスと マネジメント

## ―学校教育法と

## 私立学校法について―

学長 小池田富男



vol. 16

Tomio Koikeda  
Gakuchoshitsu Dayori

我が国には現在、四年制の私立大学はおよそ六〇〇校ほどあるが、少子化を迎えてすでに一八歳人口が減りはじめ、大学進学率も五〇%台の水準のまま低迷する中で、入学者の安定確保に向けて、各大学ともカリキュラムや教育内容に個性や特色を持たせるべく、積極的に教育改革を進めている。そうした改革の進捗状況は、各大学の経営のあり方によって大きく左右されており、それは「経営と教学」との間のバランスのとおり方や、マネジメントにおけるリーダーシップを誰がどのように発揮しているかにかかっているととても良い。

周知のように我が国では、私立大学は、原則として学校法人によって設置されなければならないことになっている。これは、私立学校としての「自主性」を尊重しながらも、同時に「公共性」を担保するためでもある。私立大学といえども、個人もしくは法人からの社会への寄付によって設置された公共的存在であり、いったん設置されればその経営は、寄付者の意



思を「建学の精神」において尊重しながらも、学校法人によつて自律的に行われることになる。そのことを定めているのが「私立学校法」であり、その上位法として「学校教育法」があつて、大学の組織運営等についての基本が定められている。

こうして我が国における私立大学（学校）の運営は、「学校教育法」と「私立学校法」という二つの法律に基づいて行われている。これらの法律において、大学設置の目的や、授会の設置の義務とその審議すべき事項、学長の職務とその権限、そして理事会の設置義務や、理事長の責任及び権限等が定められている。にもか

ナンス（管理）としての法人経営と、マネジメントとしての学校経営（校務）との区分、と言った方が適切であろう。

確かに、その下位法である「私立学校法」が二〇〇四年四月に改正（二〇〇五年施行）され、「私立学校の公共性」を高めて経営の透明化と明確化を図るために、まずは経営における理事長の権限と責任を明記し、監事・監査の機能を強化する等、「学校法人の管理運営制度の改善」が図られた。この私立学校法の改正によつて、「理事長は、学校法人を代表し、その業務を総理する」と記されたが、これは上位法である「学校教育法」上の「設置者」の「管理」責任を具体的に明記したものである。理事長は、最終の経営責任者（CEO）であり、いわば執行責任者（CEE）である学長のもとで行われる大学運営が、建学の理念や大学設置の目的に沿つて適正に行われているかチェックし、監督・管理しなければならぬとしたのである。

かわらず、大学の運営においては、しばしば経営（法人）と教学（大学）との関係が問題になり、特に理事長と学長が分離している場合に、その権限と責任をどうバランスさせるかが議論されることも多い。また逆に、学長が理事長を兼ねる場合、理事長でもある総長を選挙で選ぶことがはたして妥当かどうかについて、今も争っている都内の大手私大の例もある。

大学の運営においては、実際には「教学と経営」をそう簡単に分けることはできない。もし教学と経営との分離が可能というのであれば、例えば入試業務において、教学的には、入学する学生の基礎学力を考慮しながら入試選抜を行い、経営的には、予算定員の確保を目的に合格者数を決定し、それぞれ違う基準で別個の判定をするようなものであろう。学部学科の設置や改組等、教学にかかわる将来的な基本方針の策定を抜きに、経営計画は立てられないであろう。教育・研究機関としての公共性を考えれば、大学運営のマネジメン

ももとのこの「私立学校法」の改正は、「理事長が学長を兼ねる」タイプの同族経営系の小規模大学において、ともすれば経営優先から発生した、私物化と言つても良い不祥事等に対応するため、監事の役割を強化しようとする意図からなされたものである。しかしこの法改正によつて、同時に、経営における最終の意思決定機関として理事会の設置が義務付けられ、また理事長の経営責任も明確にされたことで、改めて「教学と経営」のあり方が問われることにもなった。というのは、各大学の設立の経緯や歴史的経過と伝統が相当程度違うことから、学校運営における学長のマネジメント（経営）と、理事会及び理事長のガバナンス（管理）のあり方もそれぞれの大学で異なるからである。

我が国の私立大学では、選挙で選ばれた学長が理事長を兼ねる大手私立大学の様な場合もあれば、創立者に繋がる理事長が学長を兼ねる中小規模の新興大学の場合もあり、また理事長と学長が別れてい



学校教育法第五条では、「学校の設置者は、その設置する学校を管理」とされており、これは私学では理事長の職務規程にあたりと云つて良い。また、同法第九十二条第三項で学長の職務について、「校務をつかさどり、所属職員を統督する」とも記されている。ここで「校務をつかさどる」というのは、決して教授会の個別審議事項への対応にとどまらず、学校経営の全般を指しており、また学長が「統督」する所属職員には、教育職員と事務職員の双方が含まれる。こうして「学校教育法」では、学校の設置及び管理に関わる法人経営と、学校業務全般の企画立案・執行、及び職員の監督を含めた学校経営（校務）とが区分されている。したがつてこの区分は、「経営と教学の区分」というよりは、むしろガバ



龍ヶ崎キャンパス

る本学のような例も多い。更には、収入の大半を授業料に依存する我が国のほとんどの私立大学の様な場合と、経常的な経費の一部までもが恒常的に財団を經由した寄付という形で賄われている、一部宗教系の大学や日本を代表する企業が設置した工業大学の事例等もあつて、それらの違いにより、それぞれ大学における理事長のガバナンスと学長のマネジメントのあり方も異なってくる。

とはいえ、どのようなタイプの私立大学であれ、理事長はあくまで監督者であり最終の経営責任者であるが、そのまま必ずしも学校運営の当事者であることはできない。もし理事長が学校運営に直接関わる場合には、手続きとして学長を兼務する必要がある、その場合には、理事会において学校運営の公共性が担保されているかどうかチェックされることになる。逆に、学長が理事長を兼ねる場合は、大学運営が、はたして建学の理念や目的に合致したものであるとして行われている。

るかどうか、経営の安定性と継続性が確保されているかどうか、常に理事会においてチェックされなければならない。

もともと、法人固有の業務といつても、せいぜい理事会の開催事務と、あとは設置した学校の運営が適正に行われているかを、管理・監督することであろう。いずれも学長のマネジメントとして行われるべき、授業料収入の確保を前提にした入学者の決定、学部学科の増設や統廃合等、教育研究の中長期的な計画・立案、また教職員の配置等の学校運営抜きにしては、法人経営といつても成り立たない。したがって、素朴に「経営と教学の区分」など形式的に捉えるのではなく、法人業務と大学経営における、ガバナンス（コントロール）とマネジメントの区別と理解すべき事柄であり、後者は前者の管理下で行われることは言うまでもない。

ところで、本学のように理事長と学長が分離され、しかも務長が法人の事務長を兼ねるべきであり、その逆であつてはならない。

以上述べてきた私立大学におけるガバナンスとマネジメントの位置づけは、実は、アメリカにおける多くの私立大学の経営の在り方そのものである。ハー



新松戸キャンパス

バードをはじめとするアメリカの私立大学では、日本のような授業料依存型とは違い、経費と資産の多くを財団からの出資で賄う財団出資型であるにもかかわらず、しかし理事長は法人経営権と学長任命権を持つだけであつて、学校経営は全て学長に委ね、経営実績が不振であれば学長を解任するだけである。理事会及び理事は、経営業務には直接タッチせず、あくまで経営業務と予算執行の観察を業務とするだけである。日本の学校教育法及び私立学校法の基本的な理念も、必ずしも事情は同じではないが、こうしたアメリカの事例を一つの理想型として踏まえたものではないかと考えられる。



付属高校といった複数の学校を設置する場合、一般には学園長あるいは総長の職を置くことになる。これは、理事長が学長もしくは校長ではない場合に、「教学優先」の学校運営を制度的に保証するためのものである。学園長は、あくまでも理事会及び理事長のガバナンスの



[学長の活動] 2012年12月~2013年2月

12月

- 11日 学内理事会  
センター試験第1回打ち合わせ  
社会学部教授会出席
- 15日 AO入試
- 16日 ラグビー全日本大学選手権  
対早稲田戦観戦
- 17日 日通学園理事会
- 18日 経済学部親会忘年会
- 23日 つばね旗高等学校剣道大会

1月

- 8日 私大連盟賀詞交換会
- 19~20日 大学入試センター試験
- 22日 私大連盟学長会議
- 25日 朝日新聞広告「実学維新vol.8」対談
- 26日 AO入試
- 29日 平成24年度交換留学生修了式  
拡大全学入試協議会
- 30日 松戸市・龍ヶ崎市観光協会協定立ち会い

2月

- 1日 松戸警察署防犯協力協定締結式
- 2日 3科目型I期入試
- 4日 青島健太氏会食
- 5日 問題自由選択型I期入試
- 6日 拡大全学入試協議会
- 12日 3科目型II期入試  
筑波銀行広報担当者来訪  
問題自由選択型II期入試
- 13日 拡大全学入試協議会
- 15日 学部長連絡会議  
茨城新聞編集長来訪
- 20日 3科目型III期入試
- 23日 拡大全学入試協議会
- 26日 龍流連携懇談会
- 27日

# ウエスト バージニア 大学 留学記

山岸直基

(社会学部准教授)

第1回

(全4回)

## 「大学の街」 モーガンタウンと その周辺

私は二〇一〇年四月から二〇一二年三月までの二年間、留学という制度(他の大学では在外研究などと呼ばれる制度です)を利用してアメリカ合衆国のウエストバージニア大学に行っていました。数年前の話ではありますが、四回に渡ってその思い出を語ってみたいと思います。

### モーガンタウン

ウエストバージニア大学は、ウエストバージニア州北部のモーガンタウンという小さな町にあります。モーガンタウン自体が「大学の街」であり、夏休みや春休みに学生が実家に帰省すると町全体がとても静かになります。つまり、モーガンタウンに住んでいる人の多くは大学関係者ということとなります。

ウエストバージニア州と聞いても、アメリカ合衆国のどこにあるのかわかる人はあまり多くないかもしれません。多くのアメリカ人にとって、もともと存在感のない州だといわれているようです。単に「ウエストバージニア」というとバージニア州の西側の部分を指しているのだと思う人も多いとか。でも、ジョン・デンバーの

「カントリーロード」がこの州のテーマ曲となっていて、この州に住んでいる人たちはみんなこの歌が大好きです。スタジオリブのアニメ『耳をすませば』の主題歌にもなっているのを知ったことのある人も多いのではないのでしょうか。私もウエストバージニアに二年住んで、この歌をたびたび聴くうちに、好きな曲の一つになりました。

モーガンタウンの地理的な場所について少しお話しします。アメリカ合衆国の東側には南北に長くアパラチア山脈があります。全長二六〇〇キ

ロメートルですから、日本の稚内から沖縄まですっぽり入ってしまう距離です。ウエストバージニア州はそのアパラチア山脈の中にあります。そのため、モーガンタウンはとても坂道が多いのです。私は自宅のアパートから大学のオフィスまでよく歩いて通っていたのですが、家から大学まで二〇分坂道を降りてゆき、帰りは逆に二〇分坂道を登っていました。おかげで二年間ほとんど病気をせずに過ごすことができました。そしてモーガンタウンはウエストバージニア州の北部に位置しています。ウエストバージニア州自体には大きな都市はありませんが、モーガンタウンから北に車で九〇分ぐらいのところ

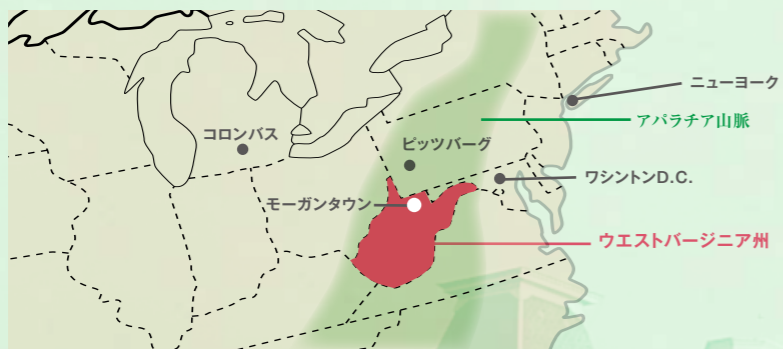
にピッツバーグ(ペンシルベニア州)があります。また、首都のワシントンD.C.には車で東に四時間、ニューヨークには同じく車で北

### クーパーズ・ロック

ウエストバージニア州立森林公園の一つであるクーパーズ・ロックは、とても緑のきれいな場所です。モーガンタウンからは車で高速道路を使って二〇分ぐらいのところにあります。ピクニックに

来てパーベキューをしたり、さまざまなハイキングコースを歩くことができます。また、見晴台からのながめはともきれいです。今回の留学でお世話になったラタール教授とそのご家族といっしょにパーベキューをしに行ったり、紅葉を見に行ったりしました。

このようなアメリカの田舎町で二年間を過ごしたわけですが、数日間の旅行と二年間の生活とはこんなに違うのかということを感じてみる日々でした。一見わかっているつもりでも文化や生活習慣の違いですが、いろいろなところでびびりさせられました。つづきはまた次回。



ラタール教授と教授の愛車の前で記念撮影

東方向に七時間程度で行くことができます。

### モーガン タウン 近くの名所

#### 落水荘

モーガンタウンから車で一時間ぐらいのところ、落水荘があります。これは、アメリカの建築家フランク・ロイド・ライトが建築した建物であり、彼の最高傑作の一つとされています。

落水荘に行くには山道に入っていく必要があります。アメリカは無料の高速道路網がとても便利なので、通常はアメリカ車のような大型の車で数時間のドライブするのはほとんど苦になりません。しかし、落水荘の近くには高速道路が通っていないので、比較的細い山道を延々とドライブしていきました。途中でめずらしく渋滞があったのですが、これは、木材を運ぶ大きなトラックが山道に登るのに非常にゆっくり走っていたためだと後でわかりました。



ウエストバージニア大学の最も古い校舎

そんな山の中にある落水荘ですが、自然豊かな山奥に、名前のとおり、滝をうまく利用した建物がありました。彼自身、日本の建築や文化から多くの影響を受けており、自然と調和した建築のアイデアを建物のいたるところで見ることができました。特に冷房機器はないのですが、自然の風をうまく室内に取り込むことで夏でも涼しく過ごすことができるようです。インターネットで検索すると、日本からもたくさんの人たちが見に来ているようでした。日本の文化がアメリカに伝わり、そして今はそれが再度日本に影響を及ぼしていることを考えるとなんだか不思議な気がします。



左から 私のオフィスがあったライブサイエンス・ビルディング / 落水荘 / モーガンタウン近くの高速道路から見た夕焼け



左から クーパーズ・ロック(見晴台) / ラタール教授とそのご家族と一緒にクーパーズ・ロックをハイキング





[新松戸総合事務センター(学務担当)]

折山俊樹 職員

母校での生活を誇りに、  
社会へ

お世話になりました。と、卒業を迎える学生が窓口を訪ねてきた。「あっ」という間の学生時代だったかもしれないが流経大に来て良かった、と思えるようになってもらいたいと思う。それは私自身がそうだから。学生時代に経験してきた勉強や部活(ラグビー)は何をとっても流経大に入学して良かったと思える。そこには人との出会いや貴重な経験などたくさんの思い出があり、全てが私を成長させてくれたと思っている。この時の成長が今の自分を形成していると思う。

職員となった今、学生たちには笑顔で卒業できるよう、アクションを起こし、挑戦し学生時代を謳歌してほしい。そして、卒業する時は胸を張って、堂々と社会へ旅立ってもらいたい。3月に卒業した学生も今は必死に仕事を覚え、走り回っているだろう。でも、大丈夫! あの時の笑顔はきっと母校に誇りを持ち、自分に自信がついた笑顔だったから。在学生の皆さんもこれからの生活にプライドを持ち、キャンパスライフを充実したものにしてほしい。



[スポーツ健康科学部]

田畑 亨 准教授

学生時代に  
人生が決まった

スポーツ政策論、特に東南アジアにおけるスポーツ政策について研究を行っています。なぜ東南アジアを対象としているかは、多民族で国家を形成している国々が多いこの地域において、スポーツがどのような役割を果たしているか興味を持ったからと言うのが表向きで、本当は、学生時代にタイ政府関係者のスポーツ関連機関(JISS、日本体育協会等)視察のコーディネートをしたのがきっかけで、タイに1年間留学する機会をいただきました。これを機に本格的に研究するようになったのが本当の理由。

学生時代のきっかけが、現在の人生をとても大きく左右することになりました。学生時代に海外に出ることは、自分の感性を研ぎすます良い機会だと思います。物価は安いが移動手段は不便、食事文化も違うが人々はとてもエネルギー豊富な東南アジアを旅行することをお勧めします。それは、東南アジアを旅行するには体力が必要だからです。

最後に、これら地域を調査している私は、朝10kmのジョギングをして体力向上に努めています。



[法学部]

村田 彰 学部長

民法を軸に。新たな  
システムに取り組む

ビジネス法の中心となる商法・会社法・財産法を日本語と中国語の対訳式で概説した本の出版や温泉をテーマとした百科事典への執筆など、革新的な著書の執筆を担当されている村田先生について、紹介します。

村田先生の専門領域は、民法です。上記に記載した温泉に関する執筆も、温泉権、つまり民法の領域に含まれます。2月には、『温泉権の歴史と温泉の集中管理』(北條浩帝京大学教授との共著)を出版しており、この著書の中でわが国に代表的な温泉とされている下呂温泉を例にあげ、当地に残された数少ない文書を元に、その温泉権の歴史的分析と温泉集中管理を説明しています。

他には、「意思」に関する領域にも興味をもたれ、具体的には、意思能力論、意思表示論、成年後見制度等をテーマにされています。最近では、高齢者に相応しい法環境の整備、二つ以上の契約が結合して一つのシステムを形成する場合に従来の民法理論はどのように変容するのか、といった問題に取り組んでいらっしゃいます。

(馬場啓一・記)



[流通情報学部]

横井のり枝 講師

海外でビジネスを  
するということ

「国際ビジネス論」と「国際マーケティング論」という「国際」がつく科目を2つ担当しています。

国際化と言われて久しく、国際的に活躍できる人材を求めている企業は多いのですが、授業科目でこの「国際」がついていると「語学が苦手なので…」と敬遠する学生を見かけます。確かに語学力があれば世界が広がることは間違いありませんが、語学が苦手だから国際的なビジネスの仕事に携われないかという、そんなことはありません。語学力は大切ですが、現地市場に赴くと、国や市場ごとに異なる文化・習慣を理解し、その対応を検討・実践しながらビジネスを進めていく力が実はもっと大切です。

授業では、異なる市場に根ざした企業が現地でどんな課題を抱え、どう対応しているのか、またそのような市場で商品を販売していくための方策などを、実際の企業の事例を交えながら話をしています。将来、学生には授業で学んだことを活かして国際的な舞台でも活躍してくれたらいいなと思っています。



[社会学部]

幸田麻里子 准教授

観光を通して  
よりよい社会づくりを

主な担当科目は「観光心理学」「観光教育論」などです。

観光学は方法論も多方面にわたるものですが、「観光心理学」は、観光という現象を観光者の心理という視点から分析します。色彩、空間などが観光者にどのような影響を与えるのか。非日常生活圏にある観光者の心理状態は日常とどのように異なり、それが行動にどのように影響を与えるのかなどです。

「観光教育論」では、教育のための観光と、よりよい観光のための教育ということで、特に後者では「よいサービス」について考えます。サービスの評価は、一人一人の感じ方によって異なるものですが、それを単なる「主観的な感想」ではなく、「科学的な説明」にするための方法などを学びます。また、人とのかかわり、ホスピタリティなどについても合わせて論じています。

卒業後の進路として、観光関連業に進む人のみならず、誰しもが今後何度も行うであろう観光をよりよいものにし、観光を通してよりよい社会づくりにつなげていく…授業を通して、そんな一端を担いたいと思っています。



[経済学部]

生田保夫 教授

「一歩前へ!」  
新たな視界を求めて

21世紀は、人類史上、かつてないグローバルな社会関係が日常生活の中に拡がっていく時代です。一周4万キロ、この地球を世界の人が、物が、情報が日々巡り、70億を超える人々の生活を支え合い、より良い社会へと持続的発展を求めています。私の専攻する交通学は、正に、この人、物、情報が行き交う日々の動きに焦点を合わせて人間社会の諸現象を分析、研究する学問としてあります。この動くという側面から社会を観るということは、日々変化の中で、評価条件が常に変化しているということを意味しています。「一歩前へ!」踏み出すということは、この評価条件の変化を主体的、積極的に自分のものにしていこうとする行動に他なりません。グローバル社会とは、全ての人々が、新たな世界を自らの手で再構築しようとする人類史上、前例のない壮大な実験に参加していることを意味しています。勇気をもって「一歩前へ!」踏み出してください。新たな視界の中で、幸運の世紀が、真の幸福を保証してくれるに違いありません。



●波田永実／はた・ながみ

明治大学大学院政経研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学後、(財)自治研修協会地方自治研究資料センターで主任研究員として勤務。2001年4月より、本学法学部に助教として着任し、2005年4月より教授に。専門は、日本政治論と地域社会論。日本政治論では、わが国の歴史や政治について。地域社会論では、自分たちの生活をよりよくするために、どのような方法があるかを学びます。趣味は音楽鑑賞。好きなジャンルはJAZZとBLUES。2013年4月より学生部長就任。



# Nagami Hata

全確保には細心さと万全が要求される。  
「御父母の皆様には絶対の安心感を持つていただけよう、学生部長として努力を惜しまないつもりです」  
波田先生は、入試にも長くたずさわってこられた。  
「学生部長に就任しても、これは続けていく所存ですが、地方を中心に学生募集活動を地道に展開していきたいと考えております。一般入試、AO入試、そして推薦入試と、入試の種類は分かれます。それを志望者の希望が実現できるようなサポートしていくことが大切だということが、入試に長くかかわって、分かるようになりました。そして、そのことがご父母のご期待に沿うことになると考えています」  
それは、これまでの経緯が物語っている。本学の入試実績は上々である。さらには田園地帯に存在する龍ヶ崎キャンパス

と、都市部に位置する新松戸キャンパス、この二箇所を擁することが流通経済大学の魅力の一つになっている。  
「ご父母の入試に対する関心は、少子化に比例して、かつてとは比べ物にならないほど、高まっています。それに対して的確に対応する柔軟性、これが大いに求められていることを入試にかかわって学んだので、今年度からは学生部長としてその経験を活かしてがんばっていきたいと思っています」

波田教授による連載「ロンドン留学余話 パブの話」(全4回)が本誌「RKU Today」vol.4～7に掲載されています。



Keiichi Baba

# 馬場啓一の RKU ウォッチング

RKU Watching



【第21回】  
法学部  
波田永実 教授

## 「大学はいつも 学生のことを考えています」

このたび学生部長にご就任された法学部波田永実教授に、その抱負を伺ってみました。  
「入試業務と教務関係、この二つを除く学生生活にかかわる仕事一切、これを取り仕切るのが学生部で、だから学生部長の仕事は無限にあります」  
大変ですね。で、ご自身の抱負は。  
「不祥事への対策は第二義的にありますが、それよりも、学生生活の快適度アップのためのサポート、これを目指したいと思います」  
積極的に大学のグッドウィルを向上させていこう、というアグレッシブな決意表明と見た。引っ込んでおらず、進んで一歩前への精神である。  
「例えば社会的な問題となって

いる体罰についても、当然ですが本学は、これまで大きな事件とは無縁でした。この点は大いにアピールしたいですね。先達の方々のためまぬご努力のたまものです。今後、一切無縁であるように心掛け、そして正しい方向に導いていきたいと思えます」  
具体的には。  
「手厚いケアをいつも用意している、という事実を学生諸君に伝えたい。日本人であれば留学生であれ、大学はいつも学生のことを考えているということ、分かってほしいです」  
家族と離れて生活している学生にとっては勿論、一日の大半を過ごす一般学生にとっても、大学の存在は重要で、かけがえのないもので、その対応と安

【図書館】

2012年度 読書コメント大賞決定

流通経済大学図書館が開催している「読書コメント大賞」の2012年度年間大賞と年間優秀賞が決定しました。

学生が本を読んで感じたことをポップ広告風の作品にして応募する「読書コメント大賞」は毎年開催されており、2012年度は応募総数386点でした。



【年間コメント大賞】

**梁谷祐太** (国際観光学科 3年)  
「世界がもし100人の村だったら」  
池田香代子・マガジンハウス 編著 (マガジンハウス)



【年間優秀賞】

**長谷川尚輝** (経営学科 1年)  
「人間失格」  
太宰治 著 (新潮社)



【年間優秀賞】

**豊増悠里** (経済学科 1年)  
「あなたが世界を変える日: 12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ」  
セヴァン・カリス=スズキ 著 ナマケモノ倶楽部 編・訳 (学陽書房)

【校友会】

校友会台湾支部総会開催

3月1日、台北市内で台湾校友会総会が開催され、校友13名と本学から佐藤校友会会長、児玉理事長他が参加し盛会のうちに終了しました。

事務局から大学の入試、就職、課外活動の状況や校友会の現状について報告があり、留学時代の思い出話や、卒業後帰国してから大学を訪れることがないこともあり、あまりの大学の変貌に驚きと母校に対する想いがより深くなった様子でした。



第14回観光クラブ総会・懇親会開催

3月2日、新松戸キャンパスの食堂を会場として、観光クラブ総会・懇親会が開催され、近年では最も多い総勢90名余りが集まりました。

観光クラブは本学国際観光学科卒業生からなる会員約350名で構成されており、年に一度それぞれ日常業務多忙中、全国から集まって旧交を温めたり、種々の情報交換をする貴重な交流の場となっています。



【国際交流センター】

異文化研修

春季休業期間を利用した異文化研修(約1カ月)が実施され、カナダ(バンクーバー)7名、イギリス(チェチェスター)6名の学生が参加しました。

カナダでは、日本の大手旅行会社現地法人の施設を利用した語学研修や実務体験を。イギリスでは、現地の学校での語学研修や、ホームステイなど、たくさんの経験を積んだようです。



カナダ研修、帰国直後(成田空港にて)



「将来、日本で就職したい」とのことですが、日本企業の魅力は何ですか?  
タイにとつて日本は貿易額や投資額などから見ると、最大の相手国です。トヨタや日産自動車などの自動車関連企業や家電メーカーなど、多くの日本企業の工場があったことも記憶しています。そんな国と国同士が協力している現場で働いてみたいと感じたのが二つの理由です。  
二つ目は、自分の力で挑戦してみたいと思ったからです。タイ経済には、まだまだ将来性があると感じています。その将来の発展のための施策を考え実行したいと思っています。そのため、世界でもトップクラスのロジステイクスを体験できる現場で働きたいとも思いました。そういった理由で、日本企業への就職を考えています。  
将来の目標が明確なように

「ホームステイをして、日本の文化や伝統、生活を自分の目で見て回りたいです」  
「将来、日本で就職したい」とのことですが、日本企業の魅力は何ですか?  
タイにとつて日本は貿易額や投資額などから見ると、最大の相手国です。トヨタや日産自動車などの自動車関連企業や家電メーカーなど、多くの日本企業の工場があったことも記憶しています。そんな国と国同士が協力している現場で働いてみたいと感じたのが二つの理由です。  
二つ目は、自分の力で挑戦してみたいと思ったからです。タイ経済には、まだまだ将来性があると感じています。その将来の発展のための施策を考え実行したいと思っています。そのため、世界でもトップクラスのロジステイクスを体験できる現場で働きたいとも思いました。そういった理由で、日本企業への就職を考えています。  
将来の目標が明確なように

「ホームステイをして、日本の文化や伝統、生活を自分の目で見て回りたいです」  
「将来、日本で就職したい」とのことですが、日本企業の魅力は何ですか?  
タイにとつて日本は貿易額や投資額などから見ると、最大の相手国です。トヨタや日産自動車などの自動車関連企業や家電メーカーなど、多くの日本企業の工場があったことも記憶しています。そんな国と国同士が協力している現場で働いてみたいと感じたのが二つの理由です。  
二つ目は、自分の力で挑戦してみたいと思ったからです。タイ経済には、まだまだ将来性があると感じています。その将来の発展のための施策を考え実行したいと思っています。そのため、世界でもトップクラスのロジステイクスを体験できる現場で働きたいとも思いました。そういった理由で、日本企業への就職を考えています。  
将来の目標が明確なように

Hello! international student!



留学生紹介

vol.21

将来は日本企業で働くことを目指すタイ出身のナッタポンさん。授業を通じて色々なことを吸収しているようです。

取材: 沖野雅広(企画広報室)



「ホームステイをして、日本の文化や伝統、生活を自分の目で見て回りたいです」  
Ponkoon, Nattapong

## RKU Schedule

2013年4月～2013年7月

### 全学

#### 4月

- 1日 ● 入学式
- 2日～6日 ● RKU WEEK
- 8日 ● 春学期授業開始

#### 6月

- 15・16日 ● 青春祭(新松戸キャンパス)
- 28日～7月4日 ● 海浜実習 ※予定  
(スポーツ健康科学部のみ)

#### 7月

- 22日 ● 春学期授業終了
- 23日～8月5日 ● 春学期定期試験

### 就職関連 (就職ガイダンス)

- 4月 ● 就職への心構え
- 5月 ● 自己分析対策
- 6月 ● ゼミ別・就職活動の諸手続き

### [編集後記]

●新学期が始まり新入生を迎えた龍ヶ崎キャンパス、新松戸キャンパスは授業や課外活動等について話し合う学生が多く見受けられます。

新入生は、4月2日から6日まで行われた大学生活へ円滑に移行できるように導入教育として実施しているRKU WEEKを終えたばかりです。新入生の皆さんがそれぞれの目標を達成するために努力、精進しこれから始まる学生生活をより充実したものにするを切に願っている次第です。

●昨年12月には民主党から自由民主党に政権が変わり、デフレ脱却を目的とした金融緩和と政策が実行されました。これからその成果が出てくると国民の皆さんが大いに期待していると思います。また、金融緩和と政策が実行に移されると円安が進み輸出競争力が出てきて輸出依存度が高い企業は収支が改善するなどの成果が表れてきています。

ただし、ほとんどを輸入に頼らざるを得ない原油が値上がりしそれに伴いガソリン、軽油、灯油等石油製品の価格がじりじりと上昇しました。また、電力会社は、以前から継続して運転していた火力発電所に加え原子力発電所の運転停止による電力不足を補うために運転を停止していた火力発電所を再稼働させており原油の輸入が増加しました。

省エネに積極的に取り組みガソリンや電力等の使用量を少なくしていきたいものです。

(編集子)

## 交換留学生修了式

# 4

1月29日、東北财经大学、海南大学からの交換留学生の修了式が龍ヶ崎キャンパスで開催されました。写真左から海南大学の王亜岐さん、楊柳さん、東北财经大学の王沛さん、黄海蓮さんです。

小池田学長から修了証書を受け取った学生たちは「日本で的一年は私の人生の中で特別な一年でした」「帰国後、友達に日本のよいところを伝えたい」とそれぞれ感想を述べていました。



## 業界・企業説明会

# 5

1月下旬、両キャンパスで新4年生を対象とした業界・企業説明会が開催され、のべ約160社の企業の人事担当者が来学されました。リクルートスーツに身を包んだ学生たちは熱心に説明に聞き入り、質問をするなど、改めて自らの進路について考える良い機会になったようです。



## 公開講座「更級日記を読んでみよう！」

# 6

法学部の和田律子教授による公開講座「松里(松戸)の記述もある『更級日記』を読んでみよう！」が3回に渡って新松戸キャンパスで開催されました。毎回約180名の市民の方々が受講し、なごやかな雰囲気での講座となりました。



## 2012年度卒業式及び大学院学位記授与式

# 1



2013年3月20日に、龍ヶ崎キャンパス・スポーツ健康センター(メインアリーナ)において、卒業式及び大学院学位記授与式がとり行われました。

小池田学長から、「如何なる分野であれ、大学で学ぶ知識そのものは、社会や企業で通用するものではありません。しかし、それらを学ぶことは理論や知識にもとづいて物事を多面的に分析し、合理的に考えながら意思決定を行う能力を身につけることができるはず。それこそ、社会で要求される『教養ある実業人』です。また、社会に出て活躍するため、未知の可能性と多様な価値の存在を認め、新しいことに果敢に挑戦しようとする気概と志を持った人材ということにもなります。これから社会に出る卒業生並びに修了生の皆さんに期待しています」と激励が送られました。

その後、1,100名を超える卒業生たちは、教職員や後輩学生、保護者に盛大に祝福され、4年間学んだ学び舎から、新たな一歩を踏み出しました。

## 国際観光学科主催 立食パーティー

# 3

2月1日、柏市内のホテルにおいて学生、OB、教職員の交流や、立食マナーを学ぶことを目的とした立食パーティーが開催されました。学生たちが実行委員としてホテルとの交渉や各種企画、進行も行ったこのパーティーには75名が参加し、和気あいあいとした上品な雰囲気のなか、食事や懇談、ゲームを楽しんでいました。



## 卒業論文発表会

# 2

社会学部と流通情報学部の卒業論文発表会が開催されました。ゼミで仲間たちと学び、担当教員から指導を受けながら研究した成果、4年間の集大成とも言える卒業論文を、学生たちは緊張しながらも堂々と発表していました。



# 2013年度 オープン キャンパス スタート!

2013 OPEN CAMPUS

2013年度の流通経済大学オープンキャンパスの日程が決定しました。  
第1回目は6月1日(土)に龍ヶ崎と新松戸の両キャンパスで同時開催です。  
実際にキャンパスを見て、空気を感じ、先輩や教職員の話聞くことで、  
本学にいつもの興味を持っていただけるものと思います。  
充実したメニューを用意してお待ちしています。お気軽にご来場ください。  
※事前の予約は不要です。



## 開催日程

### 新松戸キャンパス

千葉県松戸市新松戸 3-2-1

### 龍ヶ崎キャンパス

茨城県龍ヶ崎市平畑 120

新松戸キャンパス	開催日	龍ヶ崎キャンパス
6/1 (土)	両 キャンパス 同時開催!	6/1 (土)
6/8 (土)		6/29 (土)
7/13 (土)		7/27 (土)
8/3 (土)		8/18 (日)
8/25 (日)		8/24 (土)
9/7 (土)		9/14 (土)
10/26 (土)		10/12 (土)

## 開催時間

10:30-15:00

## メニュー

～自分に合った～  
学部学科発見コーナー  
体験授業

～先輩学生との～  
フリートーク  
キャンパスツアー&学食体験

～合格のポイント～  
入試相談

～学生生活、就職等～  
個別相談 など

★開催日によって、各学部学科のスペシャルイベントも企画しています。



[お問い合わせ] 流通経済大学入試センター

☎ 0120-297-141  
✉ ees@rku.ac.jp  
🌐 <http://www.rku.ac.jp/go>  
📱 <http://www.rku.ac.jp/go/m>



**RKU** RYUTSU KEIZAI  
UNIVERSITY

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.23** 2013年4月発行  
編集・発行 / 学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室  
茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL:0297-64-0001(代表)

